

華人経済 経営研究

～彼れを知らずこれを知らざれば戦う毎に必ず殆うし～

中国本土からアジア地域、そして世界にまで活動範囲を拡大するチャイニーズ。彼らのビジネスに対する考え方や習慣は日本人からすると異質にして独特で、理解しづらいものだといわれている。チャイニーズを総合的に「華人」ととらえ、彼らの多様な伝統文化と長い歴史から導き出された経営思想、心理と行動を体系的に分析し、華人圏や中国への進出に伴う総合的なノウハウを学び合う関西日本香港協会のみなさんの研究成果を紹介する。

甦る日本の伝統的精神

日本の伝統精神が軍国主義や超国家思想を生み出したと考えそれを根絶しようとした。厳しい検閲を通じて新聞ラジオ等の言論統制を行い、教育内容も国史や修身を廃し、民主主義礼賛に一変させた。

時代の諸制度を日本の価値観にふさわしいものに改めることも可能であったが、結局憲法や教育基本法など国家としての基本構造はそのまま受け継ぎ選択をした。

デフレ停滞の中にいる。その間、アメリカ流の株主重視や自由競争・規制緩和の経済思想が強まり、マナーの論理が最優先されるグローバルズムが普遍的な原理であるがごく喧伝され、それに基づいて様々な構造改革が実施され、日本人の意識に大きな影響を与えた。

諸外国に比べて日本人は、特に若者たちの間で、自分の国を愛する者の比率が際立って低く、自分の国が攻められたら立ち上がった国を守るという気概の比率も最も少ない、という傾向は大変憂慮すべきことであつた。

最近古事記1200年の祭が目され、神話を振り返って建国の経緯や精神を探ろうという人たちが増えてきた。中国の尖閣領海領空侵犯が激増し、韓国の反日的行為も目に余るようになって、領土や安全保障への意識が急激に高まってきた。日本を取り巻く状況が急激に変化して、戦後ずっと眠っていた歴史への関心、領土・安全保障への関心が蘇ってきた。

同時に歌や映画や英会話を始め文化や社会経済制度などアメリカ流のものが怒涛の如く流れ込んできた。物が豊富にあることが幸せであり、近代化であるという感覚も生まれた。日本人の価値観は混乱し、変質した。

民主諸制度を受け継ぎ、自ら守ることを放棄して国の安全保障をアメリカに依存し（日米安保条約）、歴史や伝統への関心を弱めたまま、日本人はひたすら経済復興に邁進した。朝鮮戦争や冷戦開始などの環境変化も手伝って、日本経済は驚異的な速度で成長した。

戦後の焼け野原の何も無い所から、1968年にはGNPで西独を抜いて世界第二位となった。その後も高度成長・安定成長が続いたが1985年のプラザ合意以降変動をきたし、1990年頃にバブル景気が崩壊して現在に至るまで長い

然し2011年3月11日に起きた東日本大震災の際に見せた被災者たちの落ち着いた行動が世界の人々を感動させた。日本を訪れる外国人が急速に増え、日本には世界にない良いものが色々あることに驚嘆している。自分の国を好きだという日本人が増え始めた。

幕末・維新の指導者たちの最大の関心事は日本が欧米列強に植民地化されないことであつた。福沢諭吉は文明開化の目的は「日本の西洋化」ではなくて「日本の独立」を確保することだと言つた。

武士道精神や日本の経営精神などの伝統的価値観を振り所としてグローバルズムを変容し、それに適合した社会や経済のシステムを構築することが重要だ。そういう基盤の上に立つてはじめて、欧米流のグローバルズムや華人社会の行動原理に対抗するものとして日本の価値観の有用性を主張することができると、またそれらとの建設的な融合を図ることも可能となるであろう。

（このシリーズは2カ月に3回掲載します）

戦後…占領下の日本
第二次大戦に日本は完敗し、日本の精神は崩壊の危機に直面した。連合国はこの戦争を日本の軍国主義者が起こした侵略戦争であるとした。1952年4月28日にサンフランシスコ講和条約が発効するまでの6年8カ月の間、日本は史上初めて統治の主権を失った。

主権者であるGHQ・SCAPが目指したのは、日本が再び世界の平和及び安全の脅威とならないように、軍国主義を廃絶し民主化を推進する事であった。戦争放棄の平和憲法を制定し、一連の民主化政策（婦人参政権・労働組合、農地改革・財閥解体・教育基本法など）を推進した。

主権回復後の日本
法理論上は、主権を持たない被占領下で定められた法制度は、独立した新たな主権者に対しては無効であり、改廃することが可能である。日本は講和条約が発効し独立した時に、被占領

東日本大震災後の転機
振り返ってみると、日本は嘗て三島由紀夫が警告したような方向へ進んでいった。「日本はなくなり、無機能的な、空っぽな、ニュー

日本人は失っていた自信
や誇りを取り戻し始めた。日本の伝統的精神は死んだかのように見えたが実は眠っていただけだった。千年以上もかけて成熟されたものは数千年くらいの変革では亡くならないほど根強いものなのだろう。

世界環境が大きく変わりつつある現在、何よりも大事なことは我々一人一人が福沢の言う「一身独立」「一国独立」の気概を持つことである。日本は戦後ずっと、物質優先、市場主義、自由競争、マネー至上主義などアングロサクソン流のグローバルズムに従った経

【木全千裕（きまたちひろ）さん】
日本香港協会全国連合会会長、関西日本香港協会会長。1961年一橋大学経済学部卒、同年住友電気工業（株）入社。経理部を経て、中近東・東南アジアなどで海外電力工事プロジェクトに従事。1990年子会社米国住友電気社長（ニューヨーク駐在）、その後国際事業担当常務取締役。1999年東洋物産（株）社長→会長（2006年テクノアソシエに社名変更）。2000年関西日本香港協会理事、2009年同協会会長。【日本香港協会全国連合会】<http://www.jhks.gr.jp/>